



PDA 即興型英語ディベート キーノートディベート (1月)

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時：2023年1月29日(日) 10:00-11:30

会場：オンライン (Zoom)

参加者：8名 (ディベーター5名、ジャッジ1名、見学2名)

はじめに PDA 代表理事中川智皓より、本日のキーノートスピーカーである森田崇雄氏 (関西大学 政策創造学部 准教授) の紹介がありました。

キーノートスピーカー紹介後は、早速チーム分けと論題が発表され、肯定と否定に分かれて準備が開始されました。

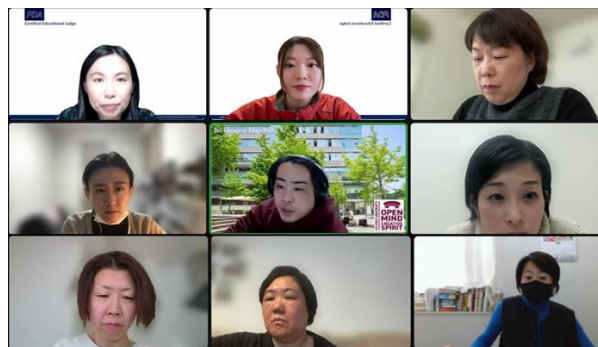


キーノートスピーカー紹介

ディベートの様子

キーノートディベートの論題は、Each company should be required to reduce greenhouse gas emissions. (各企業に対して温室効果ガスの排出削減を義務付けるべきである。) でした。肯定側は、特に発展途上国や貧困国が温室効果ガスによるダメージを被ると主張した上で、温室効果ガスの排出削減を義務付けた場合の企業の取り組みなどについて分析しました。否定側は企業ではなく国がイニシアティブを取るべきとし、全ての企業に義務付けたとしても企業によって状況は異なり、良い効果が出ないと主張しました。POI (Point of Information: ディベート中の質疑応答) も活発に飛び交い、お互いの主張に對しすかさず疑問を投げかける場面も見られました。

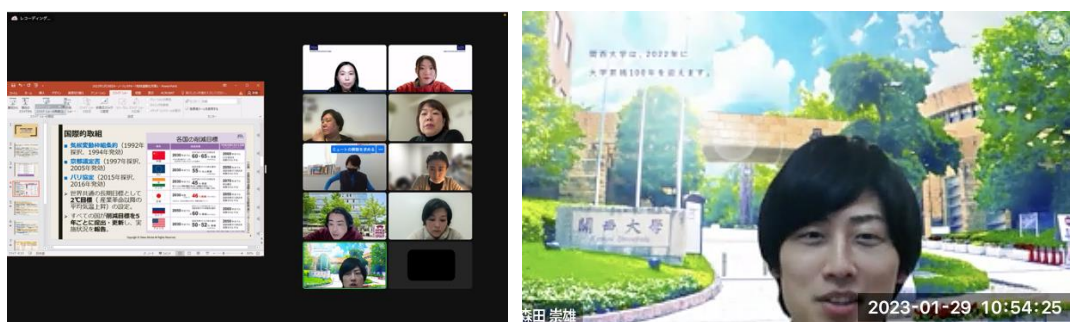
ディベート後はエアークラッシュを交わしたのち、ジャッジから勝敗やその理由、個人コメントなどが述べられました。



ディベートの様子

キーノートスピーチでは、森田崇雄先生より、論題の背景となる、温室効果ガスに関連する国際的取り組みやさまざまな削減方法の特徴などについてご解説いただきました。大気汚染物質と温室効果ガスでは対処が異なり、それぞれどのような対処がありうるのかについて詳しく説明していただきました。

質疑応答では企業に何かしら規制を義務付けた場合の実効性についてや、経済活動を抑制しなければなくなった場合のイノベーションへの影響などについて質問の手が上がり、さらに詳しくご解説いただきました。他にも、関連論題を授業で行う場合の注意点などについても質問の手が上がり、教育現場へ落とし込むための情報共有の機会となりました。



キーノートレクチャーの様子

参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・かなり細部にわたって詳細に説明してくださってとても良かったです。
- ・企業による温室効果ガス削減について具体的な方策について知ることができ、おかげで自分の立論をどのように補強すべきかを知ることができました。もう一度自分の立論を練り直したいと思います。
- ・スピード感について行くのに必死でしたが、大変学びになりました。英語力はもちろんですが、日常的に様々な課題に対する自分の考えを明確にしておくことの大切さを痛感しました。
- ・本日はどうも有難うございました。
- ・コロナぶりの参加でした。とても良かったです。このような機会に感謝しながら参加しました。そして他の先生方の姿にも勇気をもらいました。どうしても「この議題を中学校で落とし込んだらどういうアプローチで授業ができるか」という視点で見えてしまいましたが、併せて全ての積極的な先生方のディベートに大変勉強になりました。